

事例②

# センサーマット活用し、 認知症者の転倒リスク軽減



福田英道理事長

医療法人社団明寿会（富山県高岡市、福田英道理事長）は、運営する特養や老健、グループホームなど6施設にT A O S 研究所（横浜市、苗鉄軍社長）が開発・販売する見守り機器「A i S l e e p」を34台導入し、転倒前の駆け付けや適切なタイミングでの排泄誘導を実現している。

老健「アルカディア雨晴」はアルツハイマー型認知症の入居者が多い。認知症者の睡眠障害は、夜間の離床、転倒による骨折などの事故につながるリスクが高い。

福田理事長は「万が一骨折してしまうと、転院やA D L の低下に



センサーはベッドに敷く

繋がりに、施設側は安全配慮義務違反での訴訟リスクも抱えることになる」と話す。

職員からも「離床を検知して転倒予防に繋げたい」「夜間の利用者の臥床状態を正確に把握したい」との要望が寄せられていた。

そこで、転倒事故を未然に防ぐとともに、睡眠状態を正確に把握することで、日中活動の見直しに活用できる、睡眠状態やバイタル、利用状態を検知する見守り機器 A i S l e e p を認知症自立度2以上の利用者に導入した。

非接触で睡眠からバイタルまで把握する見守りセンサー

A i S l e e p は介護者の負担軽減や、要介護者の安全の確保を目的に作られた見守りセンサー。ベッドにセンサーマットを敷くだけで離床状態やバイタルデータ、睡眠状態を把握できる。

ベッド上の状態▽離床▽睡眠▽覚醒▽起き上がり▽体動▽リアルタイムでパソコンやスマホに表示し、利用者の状況に合わせて、「離床時に通知」などアラートのタイミングが設定可能。また、睡眠状態を▽深い▽浅い▽レム▽覚醒 の4段階で評価し、呼吸や心拍などバイタルデータも検知する。

解析・レポート機能も備え、睡眠や呼吸状態について24時間分のデータを画面で表示でき



離床や睡眠状態、心拍等をリアルタイムで表示する（A i S l e e p）

る。ベッドでの状態や離床回数、睡眠時の無呼吸状態等の把握にも活用できる。

夜間の見守り負担軽減や、適切な排尿誘導

同施設では夜間2時間毎の定期巡回で、入居者の状態確認やトイレへの誘導を行い、離床による転倒予防を図っていた。

機器導入後は、体動や起き上がりなど個別に通知設定することで離床が迅速にわかり、適切な排尿の誘導を実現。早期対応により転倒防止にもつながった。

また、心拍数、呼吸数がモニターでき、安否確認としての効果も得られた。職員へ行った導入後のアンケートによると46.2%が「非常に役立つ」、49.8%が「少し役立つ」と回答して、96%の職員が使用に肯定的だった。

福田理事長は「睡眠状態も把握でき、目を覚ました利用者への対応や、今まで気づけなかったリスクのある行動を把握でき、今後の対応を考慮できる体制を整えることができた。今後は目の行き届きにくい個室には、全て設置をしていきたい」と語った。